

JaLC 以前、JaLC 以降、そして、これから

土屋俊

大学改革支援・学位授与機構

2024 年 1 月 25 日
令和 5 年度 ジャパンリンクセンター
「対話・共創の場」(第 10 回)にて

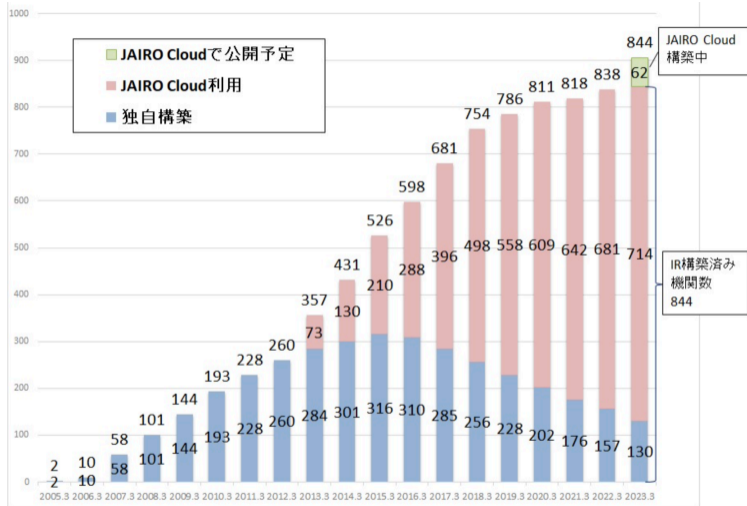
永続識別子の実現と DOI

- 1 **Uniform Resource Locator**(1994 -, RFC1738) = Domain Name + Local Path ⇒ “PURL” ⇒ URI (“Universal” vs. “Uniform”, “Locator vs. “Identifier(or Name)”
- 2 **The Handle System** (1994 -, CNRI ⇒ DONA):
Uniqueness/Persistence/**Multiple Instances/Multiple Attributes**/Extensible Namespace/International Support/Distributed Service Model/Secured Name Service/Distributed Administration Service/Efficient Resolution Service(*cf.*RFC3650)
- 3 **Digital Object Identifier** (2000 -, ANSI/NISO Z39.84 ⇒ ISO 26324:2012(en), IDF)
- 4 **CrossRef** Registration Agency (2000 -)
- 5 **JaLC** Registration Agency (2012 -) **どこが違うの?**
- 6 Ed Pentz ... キーパーソン (NISO Miles Conrad Award, 2023 年 11 月)

機関リポジトリと DOI: 2000 年代の発想

- Stevan Harnad 「オープンアクセスによって、引用は増える (はず)」
- しかし、アクセス (閲覧) されても引用されるとは限らないので、アクセスの記録を知りたい ⇒ Project COUNTER
- しかし、**当時**は、Green OA 優位の時代 ⇒ 論文著者による所属機関リポジトリへの著者最終稿 (author's final draft) の搭載による OA (ほぼ、embargo つき)
- しかし、Googled 検索すれば、雑誌搭載論文へのリンクがでたとしても、リポジトリ搭載論文へのリンクはでてこない
- しかも、所属機関リポジトリ搭載著者最終稿のアクセスは、公表論文 (the version of record) へのアクセスではない
- リポジトリ搭載を引用数の増大に繋げるための方法は、URL を提供するだけでは不十分
- Dspace は、Handle.Net Registry 対応を実装しているが、prefix を直接取得 (有料) することが必要 ⇒ 安価簡便な Identifier のシステムとして、DOI を国内で運用できればよい

機関リポジトリの増加



<https://www.nii.ac.jp/irp/archive/statistic/>

JST, NII, NDL, NIMS 連携をめざして

- 2009年12月24日にJST大倉克美知識基盤情報部長と一緒にNII武田研究室を訪問
- その背景として、文部科学省・科学技術・学術審議会・学術分科会・研究環境基盤部会・学術情報基盤作業部会(2007-2012)における議論
- 国立国会図書館(NDL)は長尾真館長時代(2007-2012)
- 国立研究所として物質・材料研究機構(NIMS)の「電子図書館」が先行
- 機関リポジトリの担い手である大学図書館は、国立情報学研究所(NII)で代表。NIIは、「次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業」(2004-2006)を実施して機関リポジトリの構築、活用を支援
- 電子ジャーナルプラットフォームを運用するJSTを運用主体として位置づけ

この10年間は飛ばして、これからについて

- たとえば、CrossRefが、Retraction Watch のデータを取得してサービスに加えた(2023年9月)とか
<https://www.crossref.org/blog/news-crossref-and-retraction-watch/>
- 「九州大学学術情報リポジトリ(QIR)のコンテンツに対するCrossref DOIの付与を開始しました」とか
<https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/news/39604>
- 各種識別子との連携
 - ▶ 著者識別子(ORCIDとか、eRadとか)
 - ▶ (所属)機関識別子(RORとか)
 - ▶ 研究資金助成機関識別子(Open Funder Registry(FundRef)とか、ISILとか)とか、被助成課題識別子とか、、、
 - ▶ データのID(JaLCで対応済み)
- インフラ整備は報われないものではあるが、、、「我が国の、、、」を謳うことが「いいこと」とは限らないが、、
- 需要がないところにサービスは育たないのは世の常であるが、いずれにせよ、識別子の永続性は利用するコミュニティの永続性のみが担保する